

音楽の生み出すよさや面白さを学び合いながら味わって聴く授業を目指して

—音楽を形づくっている要素を手掛かりにした学びの工夫—

富谷市立東向陽台小学校 後藤 由紀

1 授業づくりに関わる課題

平成24年度・25年度小学校学習指導要領実施状況調査¹⁾の音楽科の鑑賞領域において「曲想の変化と、複数の音楽的な特徴を結び付けて聴くこと」や「楽曲全体を通して、想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて、楽曲の特徴を言葉で適切に表すことに一部課題が見られる」とある。本校児童においても、令和2年6月の意識調査で児童の97%は「音楽を聴くことが好き」と答えたが、「音楽を聴いて想像したことを、音楽の言葉を使って説明できる」と答えた児童は45%にとどまった。これらのことから、聴き取ったり感じ取ったりしたことを音楽的な特徴と結び付けて言葉で表すことに苦手意識がある児童が多いことが明らかとなり、実施状況調査と同じ課題が浮かび上がってきた。

そこで、より音楽を味わい、豊かな情操を育むための授業改善を求め、「聴く観点の焦点化」や「音楽用語を使ったコミュニケーションの取り方」に視点を当てて、この課題に対する解決の糸口としたい。

2 研究の内容と方法

授業づくりに関わる課題を受け、研究主題と副題を設定した。これは、音楽の構造を理解するための「聴く観点を整理した学習」と、感じたことや考えたことを他者と共有したり共感したりするための「音楽用語と自分の感じ取ったことを結び付けた言語活動」の両者に関わらせて、より深く音楽を味わって聴く鑑賞の学びを充実させることがねらいである。そのために講じた手立てを以下に示す。

(1) 「導入」の工夫

① 児童が意欲を高め、授業のねらいに迫るための工夫

聴くことへの意識を高めるために、[共通事項]に沿って内容を焦点化した音遊びを行う。必要に応じてICTを活用し、写真や映像なども提示する。

② 児童が曲のイメージを膨らませるための工夫

音楽を聴いて自由に情景や場面を想像し、一人一人が意見を出せる雰囲気をつくるために、曲名を伏せて演奏と出合わせる。

(2) 「学び合い」の工夫

① ワークシートの工夫

音楽の構造に着目して聴くことができるよう、「聴

く観点」(強弱、速度等)を整理したワークシートを用いる。これにより、曲を聴いて感じたことと音楽を形づくっている要素との関わりを意識させる。その上で、考えたことや気付いたことを言葉でも表現できるようにする。

② 身体活動の工夫

音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに気付くために、指揮をしながら互いを見て拍を感じたり速さを比べたりする活動を取り入れたり、変化を感じたところで手を挙げたりして曲想の変化を感じ取るようにする。

③ 視覚的な工夫（ICTの活用と有効性）

学びを共有するために拡大ワークシートへ聴き取ったことを書き込んで示したり、デジタルコンテンツを使用し、演奏している楽譜の位置が音の動きと一緒にわかるようにしたりすることで、聴覚だけでなく視覚を働かせて音楽の構造への理解を深める。

なお、本研究の有効性を検証するために、6年生を対象に、授業中の発言やワークシート等への記述の分析及びアンケート調査を行い、変容を見取る。

3 I期の具体的な取組

実践授業I

題材名「いろいろな音色を感じ取ろう」

(教育芸術社 小学生の音楽6)

組曲「惑星」作品32より『木星』(作曲/ホルスト)を取り上げ、オーケストラの音色に焦点を当てた。様々な楽器の音色が、音の高さやテンポ、リズムと組み合わせられて醸し出す音楽の雰囲気や面白さに気付き、響きの美しさや豊かさなどと結び付けて味わって聴くことを目指す。

(1) 「導入」の工夫

① 児童が意欲を高め、授業のねらいに迫るための工夫

いろいろな音色に着目させるため、演奏を聴いて楽器を当てるクイズを行った。第一時ではヴァイオリンの音色を当てる三択クイズにした。特に、選択肢としたヴァイオリンとチェロの音色は、映像も使って違いを比較した。第二時以降は、複数の音色が重なり合う曲を用いて、その響きから複数の楽器を当てる四択クイズにした。実際に演奏している映像を視聴し、どの楽器がメインの旋律を演奏している

かも考えさせた。

② 児童が曲のイメージを膨らませるための工夫

曲名を伏せて音楽を聴き、音だけを頼りに自由に情景や場面を想像した。その後は曲名を知らせ、更に曲への関心を高める効果をねらった。

(2) 「学び合い」の工夫

① ワークシートの工夫

鑑賞における学習の順番と「共通事項」の言葉をまとめた「音楽の聴き方」「音楽のもと」(図1)、「音楽の感じを表す言葉」(図2)を学習プリントとして配布し、いつでも確認できるようにした。また、部分的に繰り返し聴く場面では、「聴く観点」を示し、聴き取るポイントを明確にした。具体的には、強弱、速度、旋律を最初に奏でる楽器、旋律を引き継ぐ楽器を表に整理させ、自分が感じ取った意見と結び付けられるようにした(図3)。その後、ペアやグループで話し合いながら学び合う。

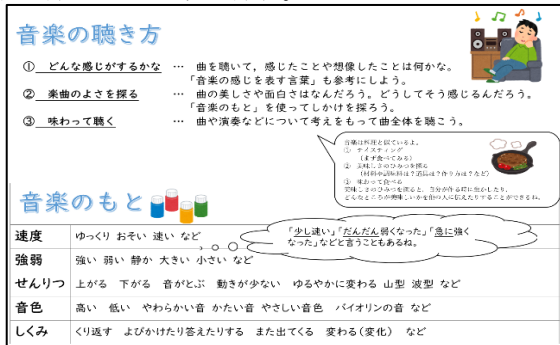


図1 「音楽の聴き方」「音楽のもと」を示したプリント

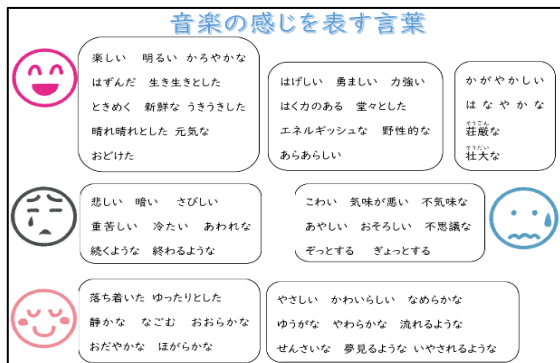


図2 「音楽の感じを表す言葉」を示したプリント

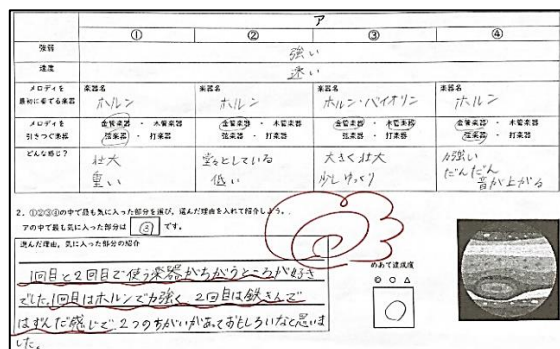


図3 音色の特徴と感じ取ったことを結び付けるワークシート①(抜粋)

② 身体活動の工夫

音楽の構造を捉えるために、指揮をするように身体を自由に動かして曲の雰囲気に変化を感じたとこ

ろで手を挙げる活動を取り入れた。また、音楽を形づくっている要素に気付く場面では、提示した4種類の旋律からどの旋律が鳴り出したかを指で番号を示す活動も行った。

③ 視覚的な工夫（ICTの活用と有効性）

アプリケーションソフトを用い、旋律の動きを音に合わせてなぞった動画を示し、旋律を視覚的にも捉えられるようにした。また、演奏の動画を視聴することで実際に使われている楽器をペアで確かめ合い、提示した総譜を見て楽器の種類が増えていることを理解させた。

4 I期の成果と課題

(○：成果，●：課題)

(1) 「導入」の工夫

① 児童が意欲を高め、授業のねらいに迫るための工夫

○ 楽器当てクイズでは、音楽に合わせて演奏するまねをしたり、「チェロだったら(音の高さがもっと低い)」と発言したりするなど、音色の特徴から自分の考えを表現する姿がみられ、毎時間意欲をもって臨んでいた。聴く曲を、ソロから2～3つの楽器によるアンサンブルへ、そして同族楽器によるアンサンブルへと演奏形態を変えていくことで、授業の展開時に楽器の音色を聴き取ろうと耳を澄ませる姿勢ができた。

● 選択肢にある全ての楽器の音色に興味を示す児童がいたので、音や動画で紹介できるようにするとよかった。可能な場合、楽器の実物を提示できるとより意欲が高まると考えられる。

② 児童が曲のイメージを膨らませるための工夫

○ 曲名を伏せて聴くことで、音楽の雰囲気を感じ取って自由に情景や場面を想像していた。その後に曲名を知ることによって、更に音楽への興味・関心を高めながら、聴き取ったこととイメージを結び付けようとする様子が見られた。

(2) 「学び合い」の工夫

① ワークシートの工夫

○ 自分の感じたことを書くことに迷ったときは、「音楽の感じを表す言葉」等を見返しながらワークシートに記入する姿があった。音色や音楽を形づくっている要素とイメージを結び付けて考える手掛かりとなった。

● 振り返りの学習活動で最も気に入った部分の紹介文を書く活動を取り入れたが、どこを選べば良いか迷う姿が見られた。例を示して提示する工夫が必要だったかもしれない。

② 身体活動の工夫

○ 曲の雰囲気に変化を感じたところで手を挙げる活動では、雰囲気の変わり目に気付き、全員が手を挙げた。変化の部分がどこなのかを互

いに確認し合えた。

- 提示部の4番目に当たる楽節と中間部を指揮しながら比較した際、互いの動きを見て明らかな速度の違いを聴き分けることができた。

- 音色の変化と曲の変化が区別できない児童がいたので、更に強弱や速度などに限定して聴くポイントを明確に示す工夫も必要だった。

③ 視覚的な工夫（ICTの活用と有効性）

- 旋律を示す楽譜が音楽と同時に動いて分かるように見せることは、楽譜が読めない児童にとって、演奏場面を確かめる手掛かりとなった。また、オーケストラの映像を見て、音色から捉えた実際の楽器を使う場面を視覚的に確かめることで理解が深まった。

- テレビはサイズや反射の関係で映像が見えにくい児童もいたと思われる。細部まで見せたい内容は、一人一台のタブレット端末に送ってそれぞれが見られるようにする工夫が必要である。

- 楽器の数が増えていく様子を分かりやすく示すために、総譜の旋律に色を付けてどの楽器が演奏しているのかを捉えさせるとよかった。

5 II期の具体的な取組

実践授業Ⅱ

題材名「曲想の変化を感じ取ろう」

（教育芸術社 小学生の音楽6）

『ハンガリー舞曲第5番』（作曲／ブラームス）を取り上げ、強弱や速度、調の変化と響きの違いに焦点を当てて鑑賞する。曲想と音楽の構造の関わりを捉え、よさや面白さを見だし、自分なりに味わって聴くことを目指す。

(1) 「導入」の工夫

① 児童が意欲を高め、授業のねらいに迫るための工夫

和音の響きをテーマにした「気持ちはどっちゲーム」という音遊びを取り入れた。第一時では、長調と短調の和音（I-V-I）を聴かせ、どんな気持ちになるかを考えさせた。第二時以降は、短い曲を聴いて、自分が感じ取ったイメージを基に、長調か短調かを色カードで示させた。

② 児童が曲のイメージを膨らませるための工夫

I期の実践と同様に行い、曲への関心を高める効果をねらった。

(2) 「学び合い」の工夫

① ワークシートの工夫

曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解するため、強弱、速度、音の響きなどの聴き取ったことと、感じ取ったことを表に整理しながら、その関わりについて学び合うワークシートを作成した。学習のまとめでは、作曲家への手紙を書く

ことで、この学習を通して学んだことを生かしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、自分の考えをまとめることで深く味わって聴く手立てとした。書くことに迷っている場合、I期に引き続き、「音楽の聴き方」「音楽のもと」「音楽の感じを表す言葉」を見返せるようにし、更に「組合せバージョン」を配布して、和音の響きに関わる表現を取り入れやすくした。

② 身体活動の工夫

速度や強弱の変化を明確に感じ取るために、I期の応用として、強弱や速度に限定して聴くポイントを示し、音楽に合わせて指揮をさせた。

③ 視覚的な工夫（ICTの活用と有効性）

I期の応用として、旋律の動きを音に合わせてなぞった動画を示しながら、反復や変化などに気付かせて曲の構成を捉えさせた。また、児童が聴き取った強弱や速度をグラフの線で示す活動を行い、それをテレビ画面で可視化し（図4）、比較しながら互いの学びを共有した。さらに、聴き取ったことと曲想を結び付ける学習活動では、自分が感じとった響きと調との関係についてグループで話し合い、児童のタブレット端末からコメントを入力させた。それを一覧表で示し、互いの考えを共有した（図5）。

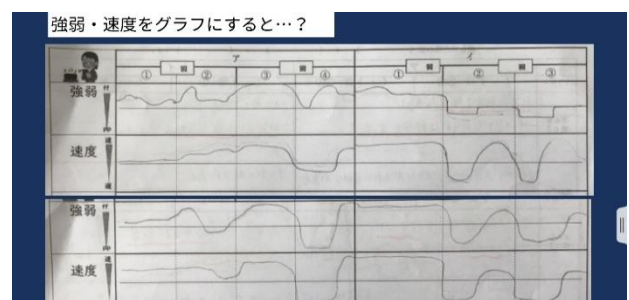


図4 強弱・速度のグラフを描いたワークシートの比較

バイオリンのような高音域が響く感じが面白かった。	バイオリン、フルートの音が印象的だった。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。
アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。	アは短調だと感じました。

図5 感じた調とその理由を一覧表示した例

6 II期の成果と課題

（○：成果，●：課題）

(1) 「導入」の工夫

① 児童が意欲を高め、授業のねらいに迫るための工夫

- 「気持ちはどっちゲーム」で、楽しみながら調の違いを感じ取っていた。長調をピンク、短調を水色のカードで示し（図6）、児童が発言した言葉を用いながら、音楽の響きについて音楽用語を使って説明することにつながった。

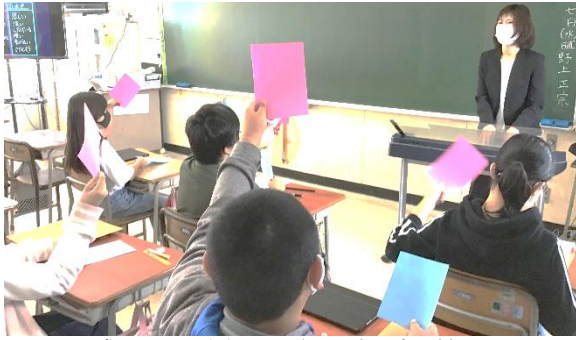


図6 感じたことを色カードで示す児童の様子

② 児童が曲のイメージを膨らませるための工夫

- 曲名を伏せて聴くと、「嵐の中の船」「森の中で飛び跳ねる子熊」「かけっこ」など、自由に想像して話すことができた。友達の発表に共感を持ち、違う感じ方が面白いと感想を述べる様子が見られた。その後、曲名を知り、「作曲家はドイツ生まれなのになぜハンガリーなんだろう」など、曲への関心を更に高めていた。

(2) 「学び合い」の工夫

① ワークシートの工夫

- 聴き取った強弱や速度の変化をグラフに表して描くことで、自分と他者との考えと比較したり共有したりしやすくなり、曲の変化を確認しながら学び合うことができた。
- 音楽の強弱や速度をグラフで描く学習は初めてだったためか、予想以上に時間が掛かった。

② 身体活動の工夫

- 指揮をすることで、互いの様子を見ながら強弱や速度の変化について確かめさせることができた。また、異なる指揮者や演奏形態による演奏を聴く学習では、自ら指揮をして確かめている姿もあった。

③ 視覚的な工夫（ICTの活用と有効性）

- 一人一台のタブレット端末を使用し、長調はピンク、短調は水色、どちらも取れない場合はクリーム色を背景に個人の考えを入力し、全員の考えを瞬時に示せたことは、児童の効率的な学びにつながった。「同じ色にならない（感じ方が違う）ところがブラームスの仕掛けかもしれない」とまとめると、自分の音楽の捉え方に対し、安心して発言できたことが成果である。

7 1年間の総括

(1) 研究の成果

「授業づくりに関わる課題」について、これらの実践から、7月に再度行った意識調査で、「はい」と答えた数が全ての項目で実践前の数値を上回った。中でも、「7 音楽を聴いて想像したことを言葉に表すことができる」「8 音楽を聴いて想像したことを、音楽の言葉を使って説明できる」に「はい」と回答した児童はともに76%へ増加した（表1）。このこと

から、児童は音楽をより深く味わう聴き方を学んだと実感していると判断できる。

表1 音楽科における意識調査（6月と7月に実施/在籍29名）

	質問	6月実施	7月実施
		「はい」の割合	
1	音楽の授業は楽しい。	76%	79%
2	歌うことが好き。	59%	72%
3	楽器を演奏することが好き。	72%	83%
4	音楽を聴くことが好き。	97%	97%
5	音楽を聴いて、様子を想像することができる。	86%	89%
6	音楽の言葉（速度、音色、旋律、強弱、変化、など）を知っている。	72%	76%
7	音楽を聴いて想像したことを言葉に表すことができる。	62%	76%
8	音楽を聴いて想像したことを、音楽の言葉を使って説明できる。	45%	76%

また、Ⅱ期の実践後は児童自身が鑑賞領域における学びの実感を持っていることが見えてきた。以下は児童の感想から抜粋したものである。

- ・ 「音楽のもと」を使いながら音楽の聴き方が分かった。前よりも楽しく聴けるようになった気がする。指揮者や楽器などちょっとしたことが変わっただけでもその曲にすごく変化が出ることが分かった。
- ・ 学習を通して、音楽はいろいろな種類があって、人それぞれ個性があると思った。私は、学習前は音楽に興味はあまりなかったけど、音楽をたくさん聴いてもっと聴いてみたいと思ったし、楽しく聴けるようになった。
- ・ 前は音楽をただ弾いているだけと思っていたけど、今は短調か長調を見分けたり、どんな感じがするかを考えたりすることができてきた。最近では音楽を聴くことが楽しみになってきた。
- ・ 前とは違って「強くなった!」と分かるようになりました。曲を聴き分けられるようになったので、表し方などももう少し頑張りたいです。

(2) 今後の課題

曲や演奏のよさなどを自ら見いだしながら音楽を味わって聴く授業づくりについて、学び合いの観点から研究を行い成果もあったが、今後は題材をより難しいものに設定したり、表現領域と結び付けたりして、言語活動を生かした音楽の学びの質を更に高めていきたい。

【引用・参考文献】

- 1) 国立教育政策研究所：平成24・25年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点（小学校音楽），2018，P.4

【図表等の許諾について】

図3～6，表1は授業実践の中で児童が記入したワークシートや活動、調査結果である。氏名を伏せて掲載することとし、児童の保護者から使用許諾を得た。

図1～4のワークシート中の図は、いらすとや(<https://www.irasutoya.com/>)にあるものを利用した。運営者から使用許諾を得た。